

1 調査名称：仙台都市圏パーソントリップ調査企画準備業務

2 調査主体：宮城県、仙台市

3 調査圏域：仙台都市圏

(仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、富谷市、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、大衡村の18市町村)

4 調査期間：平成29年度～平成31年度（平成28年度は企画準備年）

5 調査概要：

仙台都市圏では、昭和47年度、昭和57年度、平成4年度、平成14年度と10年ごとに過去4回のパーソントリップ調査（以下「P T調査」という）を実施し、「人の動き」の観点から交通施設整備計画の立案、TDM等のソフト施策、交通軸上集約市街地誘導に向けた交通施策の検討を行ってきた。

これまでのP T調査は人口増加基調の時期に実施してきたが、現在、全国的に人口減少、少子高齢社会に転じており、前回P T調査以降、交通をとりまく社会状況は大きく変化している。また、東日本大震災以降、居住者の移転や新たな業務地の整備、復興関連の交通施設整備など、前回P T調査時に想定した将来の市街地、交通施設整備の見通しは大きく変化している。

宮城県及び仙台市では、これらの背景および変化を踏まえ、仙台都市圏における交通軸上市街地集約型都市構造の形成に向けて、交通実態調査や分析及び予測評価などを行いながら、総合的な都市交通に関する検討及び協議を行うため、平成29年度から平成31年度にかけて、第5回仙台都市圏P T調査を実施する。平成28年度は、実施に向けた計画課題の設定、調査体系の検討、実態調査の企画・設計、調査スケジュールと実施体制の検討を行った。

I 調査概要

1 調査名称：仙台都市圏パーソントリップ調査企画準備業務

2 報告書目次

第1章 調査の目的と全体構成

- 1－1 調査の目的
- 1－2 検討フロー
- 1－3 企画準備の検討内容
- 1－4 第4回PT調査の成果と第5回PT調査の必要性

第2章 計画課題の設定

- 2－1 社会動向の見通しの整理
- 2－2 交通問題の構造分析と課題の整理
- 2－3 PT調査における計画課題の設定
- 2－4 計画課題に対する政策の方向性検討

第3章 調査体系の検討

- 3－1 調査対象圏域・調査規模の設定
- 3－2 予測・政策評価体系の検討
- 3－3 計画課題・政策評価の検討に必要なデータの検討
- 3－4 ゾーニングの検討
- 3－5 実態調査体系の設定

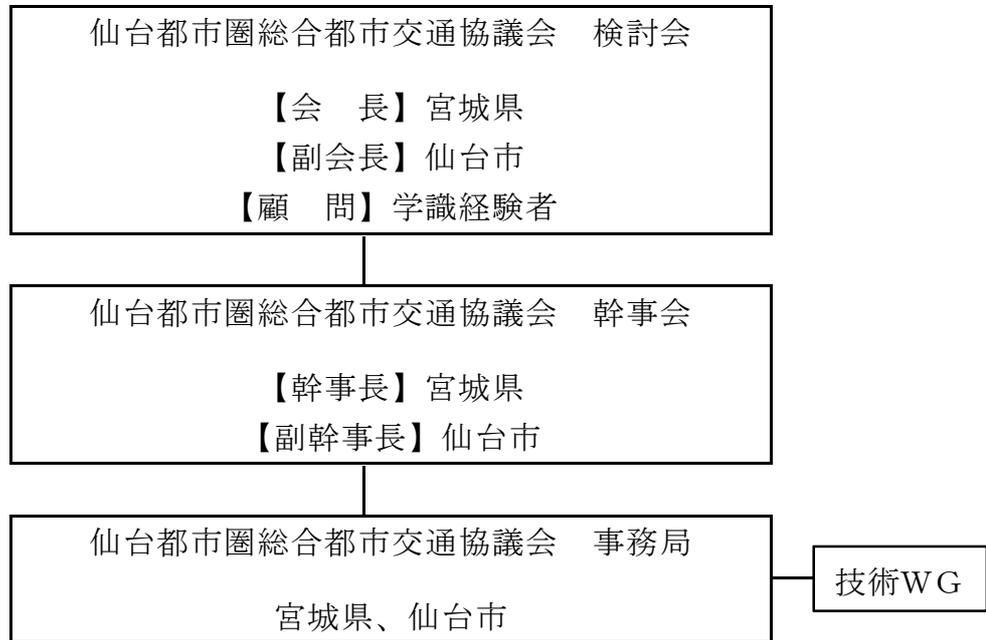
第4章 実態調査の企画・設計

- 4－1 実態調査の企画
- 4－2 行動把握調査票の設計
- 4－3 付帯・補完調査の検討
- 4－4 プレ調査実施企画の検討

第5章 調査スケジュールと実施体制の検討

- 5－1 調査全体の工程検討（3ケ年）
- 5－2 調査全体の実施体制
- 5－3 平成29年度調査工程の検討
- 5－4 平成29年度実態調査実施体制の検討

3 調査体制（平成29年度以降の体制（案））



4 委員会名簿等：

※本年度は、未開催

II 調査成果

1 調査目的

仙台都市圏では、過去4回P T調査を実施してきた（第4回は平成14年度）が、前回P T調査以降、交通をとりまく社会状況は大きく変化し、また、東日本大震災以降、居住者の移転や新たな業務地の整備、復興関連の交通施設整備など、前回P T調査時に想定した将来の市街地、交通施設整備の見通しは大きく変化している。

宮城県及び仙台市では、これらの背景および変化を踏まえ、仙台都市圏における交通軸上市街地集約型都市構造の形成に向けて、交通実態調査や分析及び予測評価などを行いながら、総合的な都市交通に関する検討及び協議を行うため、平成29年度から平成31年度にかけて、第5回仙台都市圏P T調査を実施する（平成28年度は企画準備年）。

2 調査フロー（案）

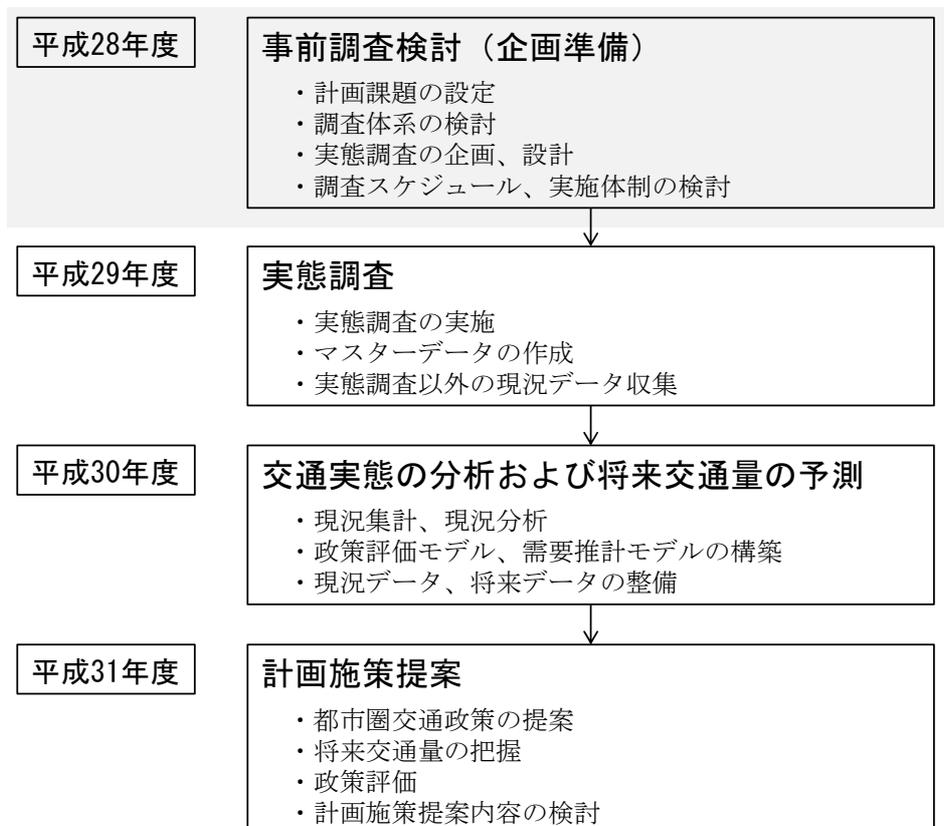


図-1 調査フロー（案）

3 調査圏域図

仙台都市圏（仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、富谷市、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、亶理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、大衡村の18市町村）を対象としている。



図-2 調査対象圏域図

4 調査成果

4-1 計画課題の設定

・「社会動向の見通し(図-3、図-4)」や「交通問題の構造分析と課題の整理」「有識者へのヒアリング」などから、仙台都市圏の現状と動向と、PT調査での着眼点を整理した。その上で、第5回PT調査における目標と計画課題を設定した(図-5)。

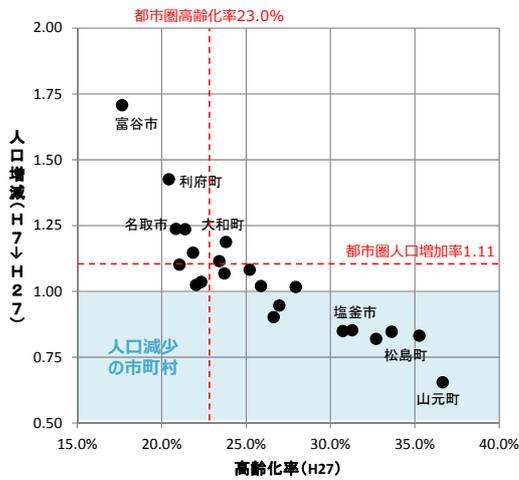


図-3 人口増減と高齢化率

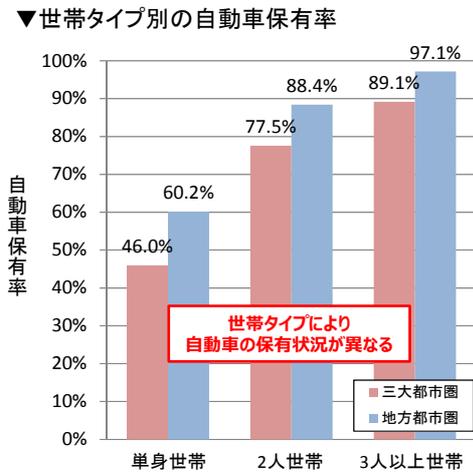


図-4 世帯タイプと自動車保有率

出典) 図-3: 国勢調査、図-4: 全国都市交通特性調査

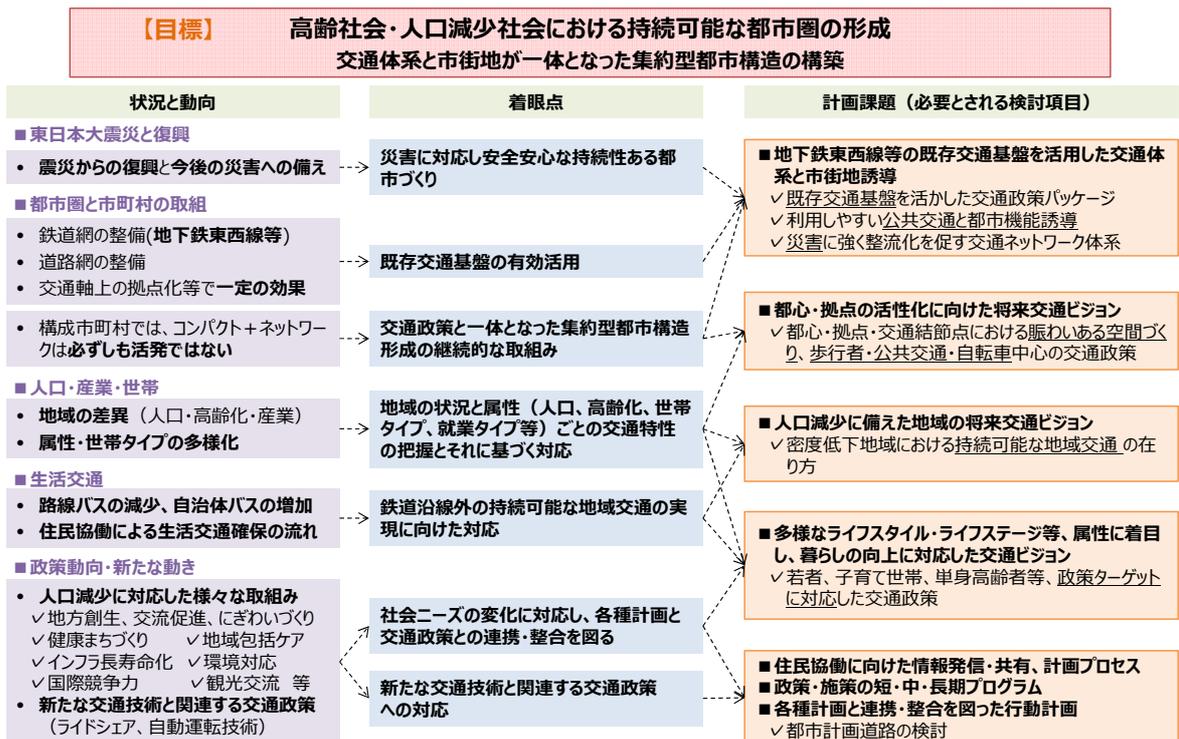


図-5 第5回PT調査の目標と計画課題

- ・さらに、近年P T調査が実施された都市圏の交通政策の動向（計画課題とP T調査のアウトプット）から、第5回P T調査の計画課題に対する政策の方向性を検討した。

4-2 調査体系の検討

<調査対象圏域>

- ・都市圏の母都市である仙台市への通勤通学依存率などから、18市町村（仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、富谷市、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、大衡村）を調査対象圏域に設定した。

<調査規模>

- ・第4回P T調査データのもとで、政策評価ツールの構築及び自動車に係る将来需要見通しが検討可能な調査規模の検討を行い、第5回P T調査の抽出率を設定した。

✓抽出率：約3%

✓調査対象数（回収ベース）：約2.1万世帯（約4.7万人）

<計画課題・政策評価の検討に必要なになるデータ>

- ・以下の3つの観点から必要となるデータを整理した。

✓P T調査での必須把握項目

✓計画課題の検討に必要な情報

✓政策評価の検討に必要な情報

<ゾーニング>

- ・第4回P T調査後の人口や都市構造の変化を把握するため、第4回と同様の大・中・小ゾーンの3階層のゾーン設定を基本とする（表-1）。
- ・その上で、第4回以降の住居表示や市街化区域の変更などを考慮し、ゾーン境界を新たに見直した。

表-1 ゾーン階層

ゾーン区分	概要
大ゾーン	都市圏全域の概況を把握するためのゾーンとして、都心からの距離帯や方面ごとに地域の概況が把握できる地域区分とする。
中ゾーン	現況集計、分析等の基本となる地域単位とする。都市計画区域、市街化区域の境界線や開発プロジェクトを反映して大ゾーンを細分化する。
小ゾーン	政策評価、将来推計シミュレーションの地域単位とする。町丁目・大字を基本とする。

<実態調査体系>

- ・「計画課題・政策評価の検討に必要なデータ」から、実態調査体系を検討し、2調査を設定した（表-2）。
- ・この他、各種交通データ（交差点交通量、公共交通利用者数、公共交通のサービス実態（走行性）など）は、関係者の提供可能なデータの活用を想定する。

表-2 実態調査体系

調査名	概要
トリップ調査 (本体調査)	個人や世帯の属性と1日の交通行動を把握するための調査
施設利用実態調査 (補完調査)	生活利便性評価に必要なデータ（駐車場状況や駅の乗継実態など）を収集するための調査

4-3 実態調査の企画・設計

<基本的な考え方>

- ・第5回仙台都市圏PT調査は、生活利便性評価や自動車交通量の推計が可能な調査規模で、調査効率の向上を図った実態調査体系を基本とする。

<実態調査内容>

- ・トリップ調査
 - ✓居住者の属性及び1日の行動を把握するアンケート調査
 - ✓平日と休日の1日ずつを想定
 - ✓住民基本台帳からの無作為抽出により、調査対象者を設定
 - ✓調査票を郵送し、対象者が回答方法を選択（調査票またはWeb）する「郵送・Web併用方式」を想定
 - ✓平成29年10月、11月の2か月間を想定
- ・施設利用実態調査
 - ✓生活利便性評価に必要なデータを収集するための調査（第4回も実施）
 - ✓「駐車場調査」「鉄道駅周辺駐車場調査」「乗り換え調査」の3つを想定
 - ✓「駐車場調査」は、収容台数10台以上の駐車場を対象とした調査員による目視調査
 - ✓「鉄道駅周辺駐車場調査」は、鉄道駅周辺の駐車場を対象とした調査員による目視調査
 - ✓「乗り換え調査」は、鉄道駅における鉄道とバスの乗り換え距離を調査員の踏査により行う調査
 - ✓調査時期は、平成29年度の調査を基本とするが、地域の整備状況を把握するためのものであり、トリップ調査時期に必ずしも合わせる必要はない。

<プレ調査の企画>

- ・宮城県及び仙台市職員とその家族を対象としたプレ調査の「実施時期」「規模」「調査方法（配布・回収方法）」「手順」とプレ調査用の物件を作成した。

4-4 調査スケジュールと実施体制の検討

<調査全体の工程検討（3ケ年）>

- ・平成29年度～平成31年度にかけて3ケ年のスケジュール案を作成した。

